

2026 年 7 月 31 日

各位

株式会社フジテレビジョン

第 14 回『サステナビリティ経営委員会』の開催について

当社は本日、第 14 回「サステナビリティ経営委員会」（以下、「委員会」）を開催いたしましたので、お知らせいたします。

1. 本日の委員会の内容

新体制への移行を受け、サステナビリティ担当部署より、これまでの取り組みについて改めて委員に説明を行い、振り返りを実施しました。

また、5 月に公表した「Group Vision 2026-2030 Ver.1.0」および新理念体系の実現に向け、これらを具体的な取り組みへと落とし込んでいくにあたり、サステナビリティ経営委員会の外部アドバイザーより、推進すべき施策や方向性についてご講演いただきました。

（2）外部アドバイザー・大崎麻子氏（ジェンダー専門・国連女性の地位委員会 日本代表）による講演

大崎麻子氏のコメント：

「サステナビリティは企業価値を高める経営そのもの。サステナビリティ経営委員会は、部署横断的に議論し、学びを抽出し、定着させる、つまり、その実装を中心的に担うことに期待している。グループビジョンの実現に向けた組織変革の過程においては、これまでの現場のあり方との摩擦が起きることもある。様々な事案を検証し、会社の中でインスティテューショナル・メモリー（組織的な記憶と学び）に変え、企業価値の向上につなげていきたい」

（3）外部アドバイザー・加藤茂博氏（人的資本経営専門・元リクルート ビジネスプロデューサー）による講演

加藤茂博氏のコメント：

「大幅な体制刷新と新しい人事方針が実施フェーズに移行するにあたり、その成否は体制だけでなく、任命を受けたリーダーの行動によって判断されていくことになる。人的資本経営が進展していくためには、データを活用し、エビデンスを持って、HR マネージャー

導入や人財調達戦略の立案、リーダーが変革を推進しているのかのモニタリングなど、個々人、リーダー、組織、全てのレイヤーのコンディションを全社で可視化し、情報を独占することなく共有し、科学的なアプローチとリーダーや HR マネージャーとの対話によって進めていく転換点に立ったと言える。今後のデータ活用、関係者のアクションによってここから大きく人的資本経営が進展することを期待したい」

また、代表取締役社長の清水からは、社内課題への対応を組織として蓄積し学びへと転換していくこと、ならびにデータを活用しながら人的資本経営を推進していくことが必要であるとの認識が示されました。

2. 今後に向けて

委員会は四半期に 1 回の開催を予定しており、人権意識の向上に継続して取り組み、社員が力を発揮できる環境を整えることで、持続可能な経営を推進します。

なお、委員会での協議内容や各種施策の実施状況等については、今後も随時開示を行う方針です。

以上